



中野冷機株式会社

平成29年12月期 決算説明会

目次

1. 会社概要
2. 平成29年度の総括、決算サマリー、
配当方針、剰余金の配当
3. 平成30年度の計画
4. 企業価値向上に向けた取り組み



目次

1. 会社概要
2. 平成29年度の総括、決算サマリー、
配当方針、剰余金の配当
3. 平成30年度の計画
4. 企業価値向上に向けた取り組み



1.会社概要

スーパーマーケットやコンビニエンスストアでの商品の陳列に使われる冷凍・冷蔵ショーケースなどの冷凍・冷蔵設備機器の国内唯一の専門メーカーです。

設立 昭和21年2月（創業大正6年4月）

資本金 8億2,265万円

所在地 本社、大阪支店、広島営業所、東北営業所、相模原サービスステーション、千葉サービスステーション、水戸サービスステーション、いわきサービスステーション、結城工場

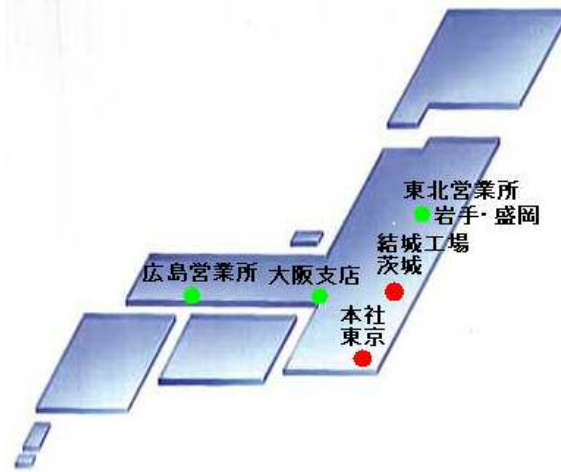
子会社 上海海立中野冷機有限公司、株式会社中野冷機神奈川、大分冷機株式会社

従業員 507人（臨時、嘱託雇用者含む）（平成29年12月末）



1. 会社概要

本社・支店・各営業所



結城工場



設立	1976年	4月
規模	敷地面積	85,326m ²
	建築面積	32,985m ²

上海海立中野冷機有限公司



設立 1994年 8月
規模 敷地面積 32,300m² 総建築面積 32,000m²
出資比率

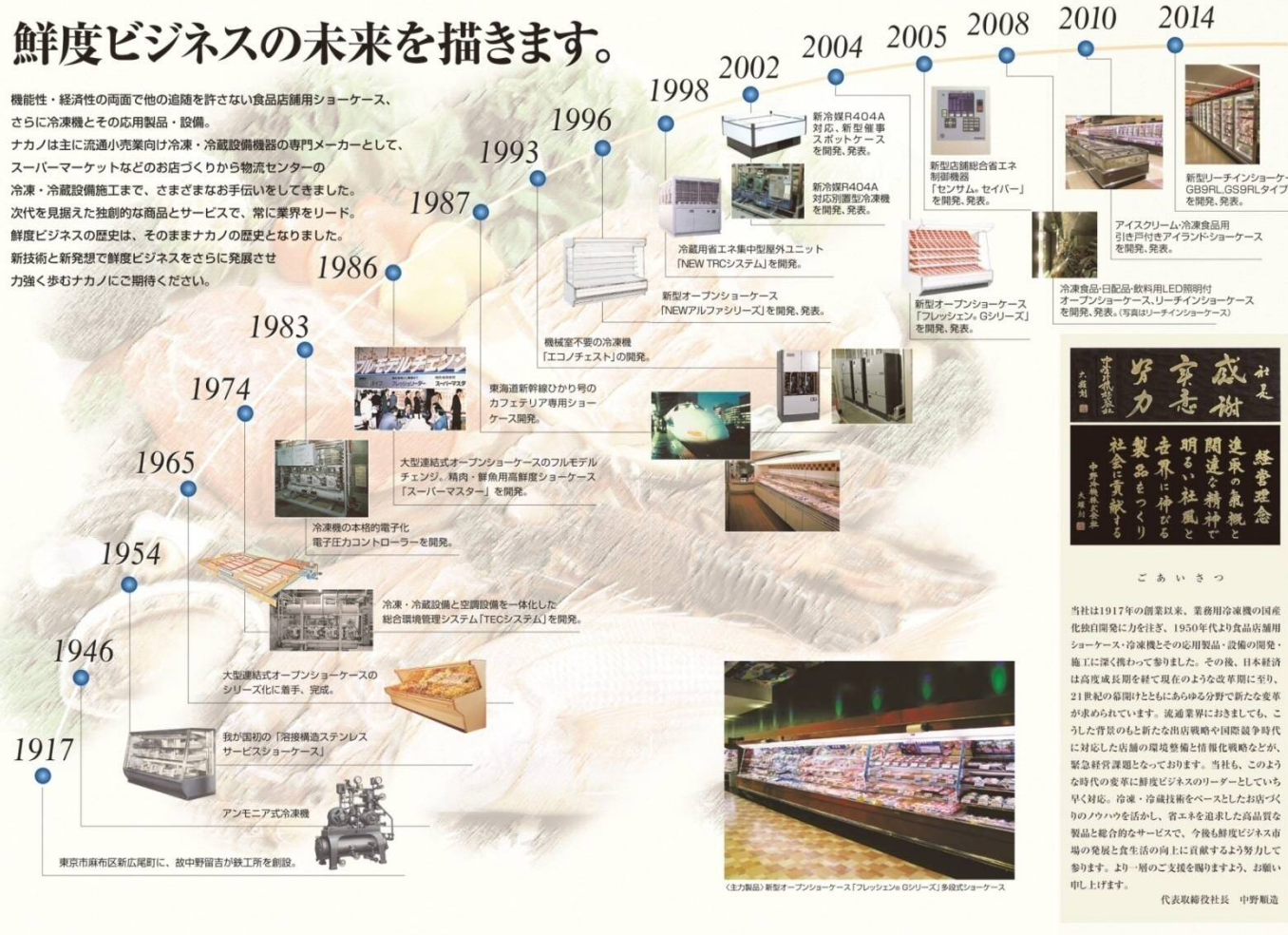
中野冷機株式会社	52%
茶谷産業株式会社	5%
上海海立股分有限公司	43%



1.会社概要—沿革

鮮度ビジネスの未来を描きます。

機能性・経済性の両面で他の追随を許さない食品店舗用ショーケース、さらに冷凍機とその応用製品・設備。
 ナカノは主に流通小売業向け冷凍・冷蔵設備機器の専門メーカーとして、スーパーマーケットなどのお店づくりから物流センターの冷凍・冷蔵設備施工まで、さまざまなお手伝いをしてきました。
 次代を見据えた独創的な商品とサービスで、常に業界をリード。
 鮮度ビジネスの歴史は、そのままナカノの歴史となりました。
 新技術と新発想で鮮度ビジネスをさらに発展させ
 力強く歩むナカノにご期待ください。



1917年創業
業務用冷凍機開発

1950年代
食品店舗用ショーケース
と冷凍機開発

現在まで
食品店舗用ショーケース
と冷凍機、その他
応用製品・設備の
開発・施工・
メンテナンス
に従事



ごあいさつ

当社は1917年の創業以来、業務用冷凍機の国産化独自開発に力を注ぎ、1950年代より食品店舗用ショーケース・冷凍機とその応用製品・設備の開発・施工に深く携わって参りました。その後、日本経済は高度成長期を経て現在のような改革期に至り、21世紀の幕開けとともにあらゆる分野で新たな変革が求められています。流通業界におきましても、こうした背景のもと新たな出店戦略や国際競争時代に対応した店舗の環境整備と情報化戦略などが、緊急経営課題となっております。当社も、このような時代の変革に鮮度ビジネスのリーダーとしていち早く対応、冷凍・冷蔵技術をベースとしたお店づくりのノウハウを活かし、省エネを追求した高品質な製品と総合的なサービスで、今後も鮮度ビジネス市場の発展と食生活の向上に貢献するよう努力して参ります。より一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 中野順道



1.会社概要—事業の流れ



- 店舗コンセプト・デザイン
- 売場レイアウト計画
- 設備の仕様決定、見積書作成
- 契約締結

お客様
店舗コンセプト

イニシャル
プランニング

プレゼンテーション

受注

設計

製造

施工

店舗オープン

メンテナンス
サービス



• 製品の製造ライン



• 365日 24時間の
メンテナンス体制



• 冷凍冷蔵設備工事の監理



1.会社概要—事業と製品



製品設計・開発・製造

専業メーカーならではの画期的な製品群
新技術への飽くなき挑戦は続きます

- 業界を独自技術でリード
- 「新世代ショーケース」の研究開発
- 高性能化・省エネ化



1.会社概要—事業と製品



設備設計・施工

高品質で安全な施工を第一に考え、
お客様のご要望を速やかに具体化します

- 確かな技術と万全な体制
- 店舗のリニューアルにも対応



1.会社概要—事業と製品



エンジニアリング事業

多様化する食品流通システムに対応し、あらゆるフィールドで「高鮮度管理」を実現します

- プランニング段階からメンテナンスまで広く対応
- 食品流通ネットワークでの数多くの実績



1.会社概要—事業と製品



トータルメンテナンス

「もしも」のために24時間365日
きめ細かいメンテナンスサービスが好評です

- トラブルの原因・内容をデータ化、製品にフィードバック
- 予防保全のための定期メンテナンス



目次

1. 会社概要
2. 平成29年度の総括、決算サマリー、
配当方針、剰余金の配当
3. 平成30年度の計画
4. 企業価値向上に向けた取り組み



2.平成29年度の総括一決算サマリー

➤ 連結貸借対照表

(百万円)	平成28年度	平成29年度	前期比		
			増減額	増減率(%)	主な要因等
流動資産	34,879	33,711	▲ 1,167	▲ 3.3%	現金及び預金の減少
固定資産	5,317	5,762	+ 444	+8.4%	建物及び構築物の増加
流動負債	9,109	9,472	+ 362	+4.0%	支払手形及び買掛金の増加
固定負債	3,768	3,716	▲ 52	▲ 1.4%	退職給付に係る負債の減少
純資産	27,319	26,285	▲ 1,034	▲ 3.8%	自己株式の取得

(百万円未満切り捨て)

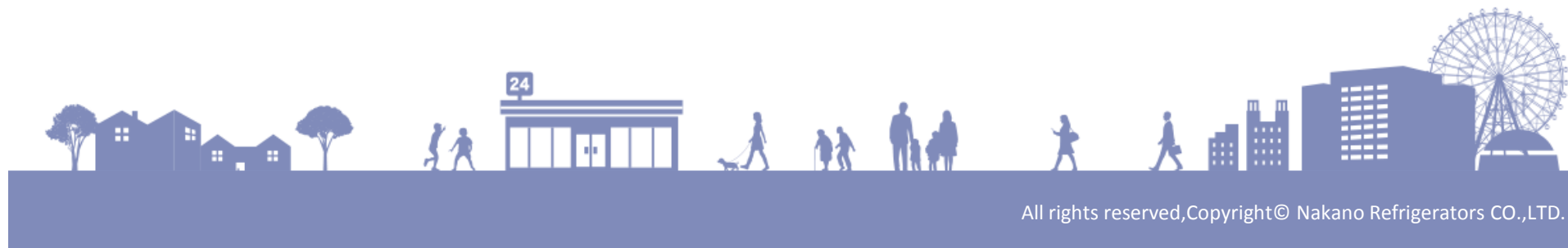


2.平成29年度の総括一決算サマリー

▶ 連結損益計算書

(百万円)	平成28年度	平成29年度	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	29,585	27,836	▲ 1,748	▲ 5.9%
営業利益	2,869	2,717	▲ 152	▲ 5.3%
経常利益	2,969	2,799	▲ 170	▲ 5.7%
1株当たり当期純利益	317円99銭	342円74銭	+24円75銭	+7.8%

(百万円未満切り捨て)



2.平成29年度の総括一決算サマリー

➤ 所在地別の業績の概況

(百万円)		平成28年度	平成29年度	前期比	
				増減額	増減率(%)
国内	売上高	27,171	25,345	▲ 1,826	▲ 6.7%
	営業利益	2,774	2,601	▲ 172	▲ 6.2%
中国	売上高	2,509	2,589	+ 79	+3.2%
	営業利益	92	116	+ 24	+26.3%

(百万円未満切り捨て)



2.平成29年度の総括—決算サマリー

➤ 連結株主資本等変動計算書

(百万円)	平成28年度	平成29年度	前期比		
			増減額	増減率(%)	主な要因等
株主資本	24,832	23,566	▲ 1,265	▲ 5.1%	自己株式の取得
その他の包括利益累計額	1,049	1,233	+ 183	+17.5%	
非支配株主持分	1,437	1,485	+ 47	+3.3%	
純資産合計	27,319	26,285	▲ 1,034	▲ 3.8%	

(百万円未満切り捨て)



2.平成29年の総括一配当方針、剰余金の配当

(1) 配当方針の変更について

(2) 剰余金の配当

	決定額	直近の配当予想 (平成29年11月10日公表)	前期実績 (平成28年12月期)
基準日	平成29年12月31日	同左	平成28年12月31日
1株当たり配当金	100円00銭	12円00銭	45円00銭
配当金の総額	506百万円	—	273百万円
効力発生日	平成30年3月30日	—	平成29年3月31日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金



目次

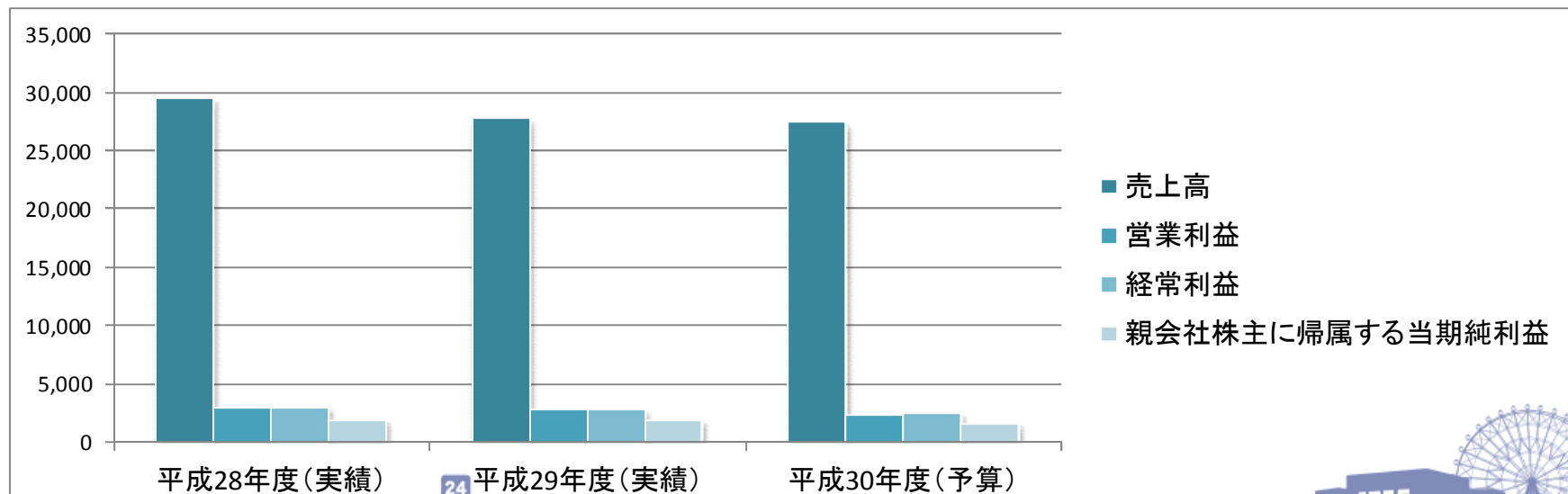
1. 会社概要
2. 平成29年度の総括、決算サマリー、
配当方針、剰余金の配当
3. 平成30年度の計画
4. 企業価値向上に向けた取り組み



3. 平成30年度の計画

(百万円)	平成28年度(実績)	平成29年度(実績)	平成30年度(予算)
売上高	29,585	27,836	27,500
営業利益	2,869	2,717	2,360
経常利益	2,969	2,799	2,440
親会社株主に帰属する当期純利益	1,929	1,868	1,630

(百万円未満切り捨て)



目次

1. 会社概要
2. 平成29年度の総括、決算サマリー、
配当方針、剰余金の配当
3. 平成30年度の計画
4. 企業価値向上に向けた取り組み



4. 企業価値向上に向けた取り組み

100周年を機に「第二の創業」へ



4. 企業価値向上に向けた取り組み

◆コーポレート・ガバナンスの充実

➤ コーポレート・ガバナンスに対する考え方

1. 配当方針の変更
2. アドバイザリー・ボードの設置
3. 社外取締役の増員



4. 企業価値向上に向けた取り組み

◆コーポレート・ガバナンスの充実

4. 任意の指名・報酬委員会の設置
5. 取締役報酬について業績連動報酬の採用
6. 自己株式の適切な保有水準の追求
7. 中長期経営計画の策定



4. 企業価値向上に向けた取り組み

◆より透明性の高い経営の追求

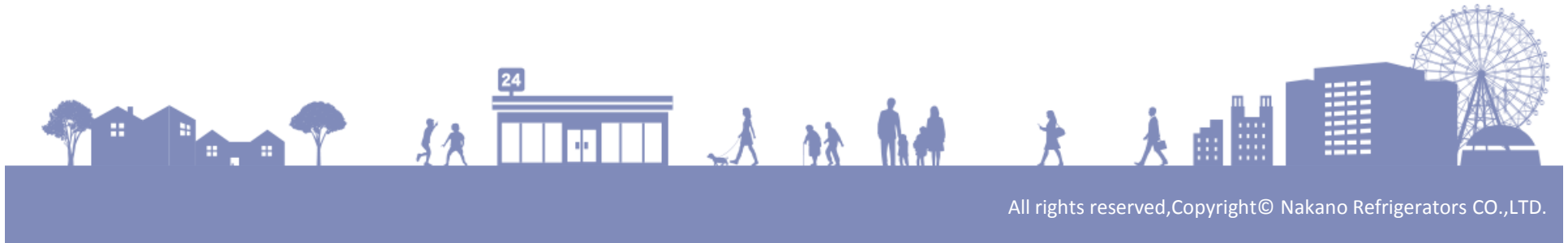
1. ROE向上についての当社の考え方
2. IR開示の充実
 - ①セグメント情報の開示
 - ②株主や投資家との対話の充実
3. CSR方針の策定・実践



4. 企業価値向上に向けた取り組み

◆人材育成の強化

1. 人材育成の見直しの方針
2. 働き方改革



1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了しておりません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値、将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。そのため、実際の業績は様々な要因により予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は、将来に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。



■■■■ 鮮度ビジネスのリーダー ■■■■

Nakano

